

SSKO



Anniversary  
Since 1983

# おあしす通信

編集 キープハート(おあしすの事業を支える市民の会)

2023年 9月号



東京有明医療大学での特別講義の様子（本誌7ページをご覧ください）



社会福祉法人  
おあしす福祉会

〒136-0076 東京都江東区南砂3-4-6  
TEL 03-5690-5959  
<http://www.oasisfukushi.or.jp/>



就労継続支援B型事業所

■オアシス・プラス 〒135-0021 東京都江東区白河4-7-2 TEL 03-5646-7811

■コム・オアシス 〒136-0076 東京都江東区南砂3-4-6 TEL 03-5690-5959

多機能型（就労継続支援B型・就労移行支援・就労定着支援）事業所

■ピアワーク・オアシス 〒135-0001 東京都江東区毛利1-7-3 TEL 03-5638-1775

地域活動支援センター／指定（特定・一般）相談支援事業所／自立生活援助

■ウィル・オアシス 〒135-0002 東京都江東区住吉1-17-20住吉ビル4階 TEL 03-6284-0545

共同生活援助事業（グループホーム）

■第2クローバーハウス

おあしす利用者家族の会「杏の会」

公益事業

■住宅確保要配慮者居住支援法人（居住支援法人）

〒136-0073 東京都江東区北砂1-5-20東陽町ダイヤモンドパレス2階204 TEL 070-6435-5374

## 子どもたちへ特別なプレゼントを

### ～子どもたちに木のおもちゃを贈る活動～

#### がんとたたかう子どもたち、そしてご自宅で快復を待ち望むごきょうだいの力になりたい

わたしたちは、2022年秋より公益財団法人がんの子どもを守る会のご協力のもと、アフラックペアレンツハウス（自宅から離れた病院で治療を受ける子どもとそのご家族が宿泊できる施設）を利用する子どもたちやご家族からリクエストを募り、おもちゃをつくってプレゼントしています。

お子さん、そしてご家族から届くリクエストは、おもちゃの種類が書いてあるものからイラストや写真付きのものまで様々です。なかには「手に麻痺があるので、リハビリもかねて遊べるおもちゃをください」「おもちゃで遊べないので、触れたり軽くたたけば音のでる楽器をつくれませんか」とお子さんのご容態を書き添えてリクエストをくださることもあります。お父さまやお母さまのなかには、子どもの笑顔を見たいと思ってリクエストを寄せてくれた方もいるのでは…と、作り手である利用者は販売用に製作しているおもちゃをつくる手を一旦止めて、お子さんやご家族に思いを寄せながら、期待に応えるためプレゼントするおもちゃの製作に力を注いでいます。

#### わたしだけでなく家族にもつくってもらえますか？

たこやきのキーホルダーのリクエストをくれたお子さん。「できればこれもつくってもらえますか？」とすこし遠慮がちに「家族みんなで過ごす部屋で使う時計」のリクエストを寄せてくれました。

時計のデザインのご指定はなかったので、『幸せを呼ぶ』と言われているフクロウをモチーフに製作。プレゼントを受けとったお子さんは、キーホルダーをすぐに開けて「アオサまでのっけていて本物かと思った！」と感激し、「時計は家に帰れたときに家族みんなで開けるね」と大切に持ち帰ってくれたとのこと。そんなお話を伺い、家族思いのやさしいお子さんとご家族へ、幸福が訪れることを願わずにはいられませんでした。



## プレゼントしたおもちゃ

2023年7月28日現在、22件のリクエストが届き、14人のお子さんへプレゼントを贈りました



#### リハビリのできる型はめ

自宅で楽しくリハビリができる型はめのおもちゃをご希望でしたので、カラフルな動物につまみをつけて製作しました



#### ごきょうだいへバランスゲーム

ご自宅で快復を願うごきょうだいへ、16匹の動物とシーソーを製作。みんな上手にのせられるかな？



#### お散歩わんちゃん

犬に興味のあるお子さんへ、お散歩のできる紐のついたわんちゃんをプレゼント

お子さんが喜んでくれたお話や、そんな子どもの様子を見て笑顔を浮かべるお父さまお母さまのことをペアレンツハウスの職員さんから伺うと、ほんのひとときでもホッとしてもらったのかなと、作り手にも笑みがこぼれます。

ひきつづき、この活動を応援してくださる方を募集します。詳しくは同封のチラシをご覧ください。幸いです。ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

（瀧下 春菜）

## おあしすの木のおもちゃ 海を渡る！

### ～カラフルで可愛い子供服のお店 OINK&KIDS IN STYLE～

清澄白河駅から直ぐの場所にある子供服のお店「OINK&KIDS IN STYLE」（以下OINK）さん。昨年よりアートパラ深川のイベントをきっかけに、ピアワーク・オアシスの木のおもちゃを販売させていただいています。今回はいつもお世話になっているOINKさんをおあしす通信の読者の皆様にもご紹介いたします。木のおもちゃの納品を担当している利用者のKさんがオーナーの須崎さんにお話をうかがいました！



可愛い子供服やベビー雑貨を販売しています



オーナーの須崎さん

#### 【オーナーの須崎さんの話】

「OINK&KIDS IN STYLE」は2015年から創業しています。昔から小さい小物が好きで、子どもが生まれた事をきっかけに子供服を売り始めました。

海外の商品も取り揃えており、オーガニック素材にこだわっているのも、手触りも良く上質な商品が沢山あります。サイズは赤ちゃんから160サイズ（小学6年生ぐらい）まであります。

木のおもちゃは特に海外の方から人気があり、台湾出身のお客様がお店に置いてあるチャームを全部買っていった事もありました。売れたら「海外にお嫁にいったね〜」なんて話していました。

いつも木のおもちゃを納品してくださる、おあしす福祉会のお二人のことは、障がいを抱えた人として見ていませんでした。おもちゃをお店で販売したのも「福祉施設の製品だから」ではなく、純粹に可愛いと思われ販売していました。今後も何か私に手伝える事があったら何でも言ってくださいね。

利用者にとって木のおもちゃの納品はおあしす以外の方と接する機会であり、緊張感を持つ人もいます。須崎さんはいつも優しく迎え入れてくださり「障がいを抱えながら生活している人」ではなく、その方自身を見てくださるので、利用者もホッと安心しながら納品に行けるのではないかと思います。

また、納品後はお店で聞いたお客様の反応を他の利用者に伝えているのですが「次はどんな商品が売れるかな」「こんなオシャレなお店に置いてあるんだ！」等製作に携わっている全員の励みになっています。須崎さん、お忙しい中ご協力いただきありがとうございます。（田坂 瑠璃）



#### 【インタビューしたKさんの感想】

インタビューの中で須崎さんと中学が同じだったと知り、びっくりしました。また、海外の商品は1年前から次回の商品を発注していると聞いて、翌年の売れ筋商品を予測するのは大変そうだと思います。

お店の雰囲気も素敵で、店長の須崎さんも優しく良いお店なので今後も木のおもちゃを置かせてもらえると嬉しいです。

「OINK&KIDS IN STYLE」 住所 江東区白河1-2-1 清澄白河駅A3出口より徒歩0分  
Instagram [https://www.instagram.com/oink.kiyosumi\\_shirakawa/](https://www.instagram.com/oink.kiyosumi_shirakawa/)



## 私にもできるボランティア活動

### ～フードドライブ（食品配布会）を通して～

#### ■はじめての対面のパントリー（食品配布会）

6月15日におあしす福祉会の利用者を対象にしたフードパントリーをコム・オアシスで開催しました。これまで延期していた対面での開催で、会場には地域の皆様から提供していただいた食品も並びました。運営に当たって利用者8名がボランティアとして活躍する機会にもなり、24人の利用者に240点分の食品を活用していただくことになりました。食品を楽しそうに選ばれている方や生活のために真剣に選ぶ方がおり、フードドライブは食品ロス削減だけでなくほんの少しでも誰かの生活を豊かにできる活動だと感じることができました。



◀ 欲しい食品を選ぶ様子

#### ■地域のイベントにボランティアとして利用者と参加しました

フードドライブ活動のご縁で6月18日に東京都住宅供給公社南砂住宅の自治会が主体となって行われた食品の配布会に、利用者2名と職員1名でボランティアとして参加しました。当日は約285の方が来場し、私たちは参加者が選んだ食品の点数を確認することに。どんどん数えなければ会場が混雑してしまうので、お二人とも「こちらどうぞー！」と大きな声をだして案内していました。手が空くと他のボランティアの方と談笑し、地域のイベントで楽しそうにボランティアに励むお二人はとても生き生きとされていました。



◀ 様々な食品が並ぶ会場

今回のボランティアで特に印象に残っているのが、お母さんと手をつなぎながらもう片方の手で虫かご持って小さい女の子に自分が手を振ったら、虫かご持ってた方の手でバイバイしたもんだからかごが落ちちゃった。こどもらしくて可愛かったし、こうしたお客さんや小さい子とのふれあいが最高に楽しかった。また来年あるなら参加したい。  
(利用者Aさん)

当日の会場には暑い中たくさんの方が並んでいてびっくりした。初めての事でできるか不安だったけど、Aさんと頑張った！お客さんとのコミュニケーションもばっちりでした。隣のおばあちゃんも会場に来てくれて後日「来年もあるの？」って聞かれたし、もっとこうすればよかったということがあるから、もし次回があるならまた参加したいです。  
(利用者Bさん)



◀ 開場前の打合せの様子

障がいによって社会参加の機会が少なくなりやすい利用者が、自分が住む地域で活躍することは当事者にとって大切な財産になります。そして利用者が地域とつながることで安心して充実した生活を送れると考えています。フードドライブの活動が利用者の社会参加のきっかけとなり、障がいの有無に関わらず、すべての人が豊かな生活を送れるような地域になるように活動していこうと思います。(山岡 望)

# 出張!!リサイクルショップおあしす

## @砂町よっちゃん家

東砂7丁目に昔懐かしい一軒家があります。夏休みになると遊びに行ったおじいちゃんおばあちゃんの家を思い起こすような、温かみのあるお家です。多世代交流の里砂町よっちゃん家の代表の吉野さんが地域にお住いの方々の居場所としてお家を開放し、多世代の方が交流できる場所となっています。リサイクルショップおあしすは広さが7坪しかないため、お店以外の販売場所を探していたところ、江東区社会福祉協議会によっちゃん家をご紹介いただき繋がることができました。話し合いを進め、6月19日にミニバザーを開催！お家の中での販売だったので、お客様のなかには畳に座り、店員の利用者とゆっくり話をしながら商品を選ぶ方がいらっしやいました。フリーマーケットやお店の販売とは全く違う新しい雰囲気での販売はとても新鮮で、利用者や職員共に良い刺激になりました。砂町よっちゃん家の皆様、この度はご協力いただきありがとうございました。（山岡 望）



◀ 多世代交流の里砂町よっちゃん家

よっちゃん家はいろんなイベントをやっていて、スタッフの方が優しくていい人だったし、一人で家にいるよりもああいうところだったら少しでも楽しく過ごせていいなとおもった。もっといろんな人に来てもらいたいです。はじめての開催だったけど、目標金額以上の売り上げになってよかった！（店員Cさん）



▲お家の中の販売の様子



▲すてきな縁側

田舎のおじいちゃん家に似ていて子供の頃に戻ったみたいな感じがして懐かしかった。思ったよりもたくさんの方に来てもらえてうれしかったし、お客さんと話せて楽しかった。いらっしやいませ、ありがとうございました、とかちゃんと言うことが出来たし、「わたし80歳なのよ」というお客様に「見えないですお若く見えます」っていったら喜んでくれてうれしかった。（店員Dさん）



◀ よっちゃん家の旗に並ぶリサイクルショップの旗

### ★リサイクルショップおあしす★

住所：江東区北砂4-1-14高梨ビル1階  
アクセス：都バス07門前仲町行・錦糸町行  
「北砂2丁目」下車徒歩1分  
営業時間：月曜日～金曜日10：00～16：00  
毎月第2.4土曜日10：00～15：00

リサイクルショップおあしす  
公式X（旧Twitter）はこちら！



引き続き、販売活動に関わらず利用者が地域で輝ける場所や機会を探しています。ご協力いただける方はコム・オアシスまでご連絡ください。

## 江東区での单身生活事情

### ～建物の老朽化による建替えがもたらすもの～

おあしす福祉会では、2018年から「江東区障害者单身生活サポート事業（通称居住サポート事業）」という取り組みをしています。この事業は、江東区内に住民票があり、江東区内で民間アパート等で单身生活を始める方、又は、現に江東区内で单身生活をしていて、何らかの理由で転居先を探さないといけな方など、江東区での单身生活を支援する事業です。また、2022年からは、住宅確保要配慮者へのサポートをしていく居住支援法人としての取り組みも始め、障がい者の居住支援をしています。

#### 転居支援の5割が建替えによる取り壊し

近年これらの居住支援を利用して転居された方々は18組で、そのうち建物の建替え・取り壊しによる転居が9組と5割を占めています。ほとんどのケースが直前にオーナーが替わって、建物の老朽化による建替えという事由で立退きとなっています。建物の賃貸借契約は借地借家法により、立退きを求める際には1年前から6ヶ月前までの間に契約を更新しない旨を伝え、さらに契約を更新しないことについて正当事由があることが必要とされます。つまり、退居の通知は6ヶ月前までには通知するものとされています。

#### 建替えによる立退きで起きていること

立退きの業者は様々で、良心的ではない業者では、突然訪問し6か月前の通知が必要なことなど説明せず、2ヶ月後には立退いてほしいと言い、立退きに合意してくれたら25万円を払うといった条件で立退きの合意書へのサインを求めてくるケースもありました。一見、お金をくれて良さそうに思うかもしれませんが、この業者は転居先の賃貸契約初期費用や引越代を負担するとは合意書に記載せず、生活保護受給者だから福祉事務所に出示してもらえばいいというスタンスで、そもそも合計額の25万円は、賃貸契約の初期費用（通常30万円以上）にも足りない金額でした。立退きの際は合意書が交わされるのですが、その内容は様々なので確認が必要なようです。

ある方（生活保護受給）は、元々住んでいた部屋が共益費なしの家賃53,700円（住宅扶助の上限額）だったのですが、同じ家賃でお風呂も付いていて洗濯機も置ける部屋が見つからず、結局は53,700円＋共益費6,300円の物件に転居することになり、生活費から6,300円を毎月捻出しなければならなくなりました。この方は物価高騰も手伝って生活費の調整に苦慮されています。

別の方（生活保護受給）では、3年の間に2回転居するということが起きています。家賃が安価な物件はどうしても築年数の経った物件となり、入居して2年経たないうちに大家さんが替わって建替え、立退きということが続き、2回目の転居後に体調を崩して数日の入院となってしまいました。

他にも、転居先を申し込んでも申し込んでも家賃保証会社の審査で落とされてしまい、なかなか転居先を見つけれなかったという方もありました。以前は家族・親族の連帯保証人が立てられれば賃貸契約は成立したのですが、近年では家賃保証会社の審査次第といったことが多くなっています。特に収入源が年金のみといった方の審査が通りにくい印象です。

また、60歳以上の方を「高齢者」として入居を断っている大家さんもいます。60歳を過ぎると貸してもらえ物件が減り、条件に合った物件が見つからない可能性があります。東京都では都営住宅が安価な物件を提供しています。60歳以上の方は单身でも申込みはできますが、これがなかなか当たりません。今のところ東京都には都営住宅を増やす計画はなく、空き家を活用した“セーフティネット住宅”という「入居を断らない」賃貸住宅を増やす取り組みがされています。しかし江東区は物件数も少なく、安価なセーフティネット住宅の登録もありません（8月3日現在、8.7万円が最安値）。

#### 「住みなれた地域でくらしたい」を実現するために

このように、江東区の住宅問題は多くの区民に影響する課題となっています。セーフティネット住宅の拡充なのか、都営住宅の新規着工を求めるのか、その他に何か手立てはあるのか。どのような形が安心して江東区に住み続けられる形なのか、おあしす福祉会は今後も区民の皆さまや関係機関の皆さまと一緒に考え取り組んでいきます。 （市村 哲郎）



# 当事者の声で未来の看護がより良いものになるように

## ～東京有明医療大学看護学部講義レポート～

7月3日、江東区にある東京有明医療大学看護学部の2年生に向けて特別講義に行ってきました。ご縁があり今年で3回目となります。今年は、就職しているおあしすOGの方と第2クローバーハウスを経ておあしすのB型事業所で活躍している2名が当事者講師として登壇しました。発症までのこと、発症してからのことを平松理事長によるインタビューと学生からの質問形式で約60分間、リアルな体験を学生に語りました。その姿からは、当事者講師の「良い看護師になってほしい」、「若い人たちの役に少しでも立てたら」という熱い思いが溢れていました。また、今回は学生と交流する時間もあつたらということで七夕の短冊づくりも一緒に行う機会を作っていただき、それぞれの願いを天の川に託しました。

### 〈講義を受けた学生の感想の一部をご紹介します〉

■人間として、看護師として患者さんの気持ちを考えられる人になりたいと思った。その人の気持ちに寄り添い、親身になって考えることが大事だと思った。当事者さんの話を聞いて、患者さんからの看護師の姿がわかったので、勉強になった。（Aさん）

■当事者が嬉しかったこと・悲しかったことの体験を実際に聞いてみて、やはり患者さんだからこそ感じることもあると改めて知り、精神的な疾患を抱えた患者さんだからこそ、気持ちにより寄り添った看護を提供できれば良いと考えました。「天気が晴れたような気持ち」など独特な言葉で表現していたのもとても可愛らしくて、話したいという気持ちが伝わって、それだけで嬉しかったです。やはり、ただの患者さんとしてではなく、1人の生活者として看護することの大切さを改めて学びました。とても貴重なお話をありがとうございます。（Bさん）

■学生の皆さんの前で話すということで少し緊張もしたけれど、やるからには頑張りたいたいと思っていました。講義で一番伝えたかったのは「私たちが平等に扱ってほしい」ということでした。デイケアでつらかったことなどを話したけれど、入院中の楽しかったことも思い出せたのはよかったし、話すのは苦ではなかったです。

学生の皆さんは若くて、美人で、本当に素敵で私の話を真剣に聴いてくれてすごく嬉しかったです。無事に講義が終わってほっとしましたし、やってよかったと思いました。学生の皆さんが書いてくれた講義の感想は全部読みました。感動しました。私たちのことをこんなに書いてもらえて、話したことが伝わった！たくさんを感じ取ってもらえた！と嬉しく思いました。

学生の皆さんには患者を平等に扱ってくれる素敵な看護師になってほしいし、大変な仕事だと思うけど楽しく働いてほしいなと思います。（講師Cさん）

■今回、自分の体験を話すにあたって、患者の身になって寄り添ってくれる、そういう人が増えてほしいという思いから、「看護師である前に一人の人として向き合ってほしい」と伝えました。学生の感想にもこのことが書いてあって、私の思いが伝わったかなと感じました。話をしてよかったと思いました。

いろいろな人が闘病体験を伝えることで、学生の学びになり、精神科の理解に繋がります。人はそれぞれみんな違うけど、みんな支え合って生きていけるようなきっかけになっていけばいいと思いました。（講師Dさん）



学生と共に作成した七夕飾り

誰しも自分のことを語る場というのは過去を振り返ることにもなり、自分自身と向き合うことはとても勇気がいることでもあると思います。障がいがあっても、自分自身が望む生活を実現している二人のお話は、学生の皆さんにとって、これからの学生生活・そして看護師として進む先を後押しする力強いものだったと思います。また、2人から共通して語られた「講師をやってよかった」という言葉からは、自信と達成感が感じられ、施設の中では見たことがなかった新しい素敵な一面を知る機会にもなりました。看護をする側もされる側も「一人の人として」お互いに尊重しあう…。本来ごく当たり前のことが、立場や環境が変わると見失われやすい面が医療や福祉の現場でもあると思います。だからこそこれからも双方が「人として」対話し交流できる機会を地域の中に創っていくことをおあしす福祉会は続けていきたいと思っています。そして、こうした機会をおあしす福祉会はもっと求めています。大学・専門学校等への講義のご依頼をお待ちしています。（飯野 なつみ）

## おあしす福祉会設立40周年を迎えて

1983年の4月、江東区で最初の精神障害者のための共同作業所を開設してから40年が経過しました。「精神障害を抱える当事者が安心して集い働ける場所を」という当事者、家族、関係者の切実な願いを実現するために、始めは五和貴江東クリニックの3畳間をお借りしてのスタートでした。当初は公的な補助金もなく、賛助会費と年に数回バザーを開催した売上げで運営せざるをえませんでした。

その後、5か所の共同作業所と2か所のグループホームを開設して、利用希望者の増加に対応してきました。2001年には社会福祉法人おあしす福祉会を設立し、無認可の共同作業所から法内施設へ段階的に移行しました。制度改正の都度事業の再編や新規事業開始等を行い、現在は4か所の通所施設と1か所のグループホームを運営し、働くこと、暮らすことをサポートする様々な障害福祉サービスを展開しております。



### リカヴァリーを目指して

「精神障害」の一部は、脳機能に直接的障害をもたらす疾患（脳の外傷・腫瘍・出血や梗塞および薬物など）です。これ以外の多くの「精神障害」は、人がこの社会で生きていく過程で様々な困難や挫折を経験し、その際に、「大きな感情的苦悩と社会的役割の喪失」を伴うと回復が困難になり「精神の変調」をきたしたことになるものです。従って、精神障害からの回復は「感情的苦悩からの癒しと社会的役割を取り戻すこと」によって成し遂げられます。そのためには「障害があっても地域で市民として生活し、自らの望む人生の実現を目指す」ことが重要になります。

コム・オアシスの運営するリサイクルショップやオアシス・プラスによる商店街での弁当販売では地域の方々と直接交流し、皆さまに喜ばれたり励まされたりします。またピアワーク・オアシスが木のおもちゃの出店販売時に行う「木のおもちゃ作りワークショップ」やウィル・オアシスが実施するポッチャ等の講習会では、利用者が講師として子供たちに優しく丁寧にやり方を教えます。これらの活動に参加した方々からは「次はどこでできますか?」「うちのイベントに出店しませんか?」などと声をかけていただいております。

東日本大震災に際しては「自分たちにも何かできることはないか」という利用者の声から始まった被災地の子供たちに木のおもちゃを贈る取り組みを行い、その後、熊本地震や九州北部豪雨で被災した子供たちに対しても行いました。この木のおもちゃを贈る活動は、小児がんの子供たちへも続けられています。子供たちに贈る木のおもちゃは、一人ひとりの子供たちからのリクエストに基づき利用者たちが作成した「一点物」です。その製作過程で利用者子供たちとお手紙等による交流ができ、贈った後に喜びの声や写真を送っていただいております。これらの活動を通して「支援を受ける障害者」ではなく、「障害があっても人の役に立ち、喜ばれる存在」となれます。これこそが障害からの回復（リカヴァリー）だと考えます。

### これからのおあしす福祉会が目指すもの

おあしす福祉会の精神障害者のリカヴァリーを目指す40年間の活動を振り返り、すべての障害者が一人の市民として地域で生活し自らの人生を有意義に生きていくためには、多くの市民の皆さんとともにお互いにその人らしく自らの人生を生きていくことが必要だと考えます。共生社会とはすべての市民が協力し助け合って、ともに作り上げていくことが重要だと思います。障害のあるなしに関わらず、ともに協力して助け合うことによって、個々の人生を豊かにできるのではないのでしょうか。おあしす福祉会はこれからの10年を、共生社会の実現に向けて、江東区内の様々な分野や団体、住民、地域の自治会や町会、商店街の方々と連携し、共通課題に利用者とともに取り組むことを最重点課題としていきたいと考えています。

ぜひ、皆様にこれまで以上のご協力とご支援をお願い申し上げます。

社会福祉法人おあしす福祉会 平松 謙一